

チーム担任制のメリットについて

これまでは正解がある中でそれを見つけ出す社会でした。近未来は正解がなく自分たちで解を作り出していく社会になると言われています。したがって近未来では「自立」し「協働」ができる人材が求められるとともに、各個人の潜在能力を引き出していくが必要になってきます。

本校のチーム担任制は生徒の「自立」や「協働」する力を育てるために導入しています。

(自立:自分でできることは自分で行う。しかし、助けが必要な時には誰かに頼ることができる。)

(協働:価値観の同じ人、または違う人と協力して物事を成し遂げていく)

□ 生徒にとってのメリット

- ・生徒が主体となって話し合い活動する機会が増えるので自分で考えて行動しようとする雰囲気生まれる。(「自立」・「協働」が求められる機会が増える。)
- ・様々な教職員とかかわる中で生徒が安心して学校生活が送れる。
- ・多くの教職員で生徒観察をするので生徒が困っている時に気づいてもらいやすい。
- ・学年団のどの教職員にも相談しやすい。生徒が相談できる教職員(大人)を探すことができる。
- ・固定担任制よりも相談のチャンスが増える。(固定担任制であると話したい先生がいても担任でないからなかなか相談しづらい場面がある。)
- ・問題(課題)によって生徒は相談する教職員を選択する。(選択する力を養う。)
- ・生徒自身が信頼できる教職員に相談するなど積極的に教職員とかかわろうとする。
- ・様々な教職員とかかわりを持ち、刺激を受けて成長できる。
- ・学年団が7名の教職員で構成されるなら7名の教職員の考えや思いに触れられるため各生徒の心にマッチする可能性が高まり、各生徒それぞれに信念が芽生えてくると考えられる。

□ 教職員にとってのメリット

- ・多くの教職員で生徒観察、生徒理解をするので生徒が困っている時に気づきやすい。
- ・生徒を多面的に理解することができる。
(一人の教職員でなく多くの教職員の前で見せる姿を教職員間で情報共有できるから)
- ・各教職員の得意分野を生かし生徒の相談に応えることができる。
- ・情報共有のために一日の記録を残し毎日引継ぎ作業をしているが、記録を見ると各生徒の様子や学級の雰囲気がつかみやすくなっている。
- ・生徒からの指名によって教育相談がスタートする機会が多いので教職員にとっても相談がスムーズに進みやすい。また、教職員自身の得意分野が生かせるので相談の解決に向かって早く進む。
- ・授業、学級経営、生徒指導などでベテランや中堅教職員が若手教職員の育成に務めるとともに、若手教職員の得意分野(例えばICT等)などを学ぶ機会を作るなどで教職員の力量を上げることができる。(そして生徒に還元される。)